

余暇のひととき

文化協会より

短歌

△二名短歌会▽

新薬の「癌で死ぬるな」が出ると言う妹が死にしは三月前なり
 暑き日に井戸水流し小松菜を心ゆくまで洗ってをりぬ
 吉田 信保
 芋畑にころげては起き這ひてゆくてんとう虫の朝日うけつつ
 善家 キクエ
 麦の穂の続く田圃を眺めつつ麦飯食べし昔なつかし
 善家 博子
 いたむ足ようやくいえて蔭に廻り背のびをしつつ庭草をひく
 武田 あきの
 六枚屏風に孫ひ孫の写真ぎっしり朝な夕なに眺めて暮らす
 武田 キミ子
 授かりし命のありて娘と参る夫の墓辺に風吹き抜ける
 安波 五月
 山鳩が淋しげに鳴くほの暗き山を包みて霧雨の降る
 高山 幸子

俳句

△ひよどり句会▽

細道の先なる茶室青楓
 晩涼や山の上から海を見て
 板倉 潤子
 はじめての毛筆にぎり「いね」と書く
 清家 カヨ子
 秋雲や着信音の「第九」鳴る
 田中 孝子
 輪を描き岩滑り落つ滝しづき
 日野 啓子
 赤とんぼ砂のおにぎりすすめらる
 平山 雅州仔
 番付表と団扇もらって入場す
 平岡 千代子

川柳

△川柳鹿の子吟社▽

Mサイズ無理と思うが鏡見る
 気の緩みどこを向いても落し穴
 何願うにわか神道伊勢参り
 戻らない記憶に子守唄うたう
 子に迷惑かけないように万歩計
 錆ついたからだ騙してネジを巻く
 うっかりと大師に詫びる橋の杖

荒木 孝
 宇都宮 忍
 大西 直子
 加藤 桂子
 日高 伸子
 松本 圭子
 宮川 柳酔

△やまがら句会▽

湧水の洞窟の幣ぬれてるし
 庭先にもち出す椅子や踊唄
 どくだみの花を漬けこむ化粧水
 新涼や帆を張るやうに干すシート
 秋兆す学園通りのポプラの木
 雨催ひやんまの低く群れはじむ
 霧やがて雨粒となる下山かな

黒田 公子
 高月 弘子
 滝水 スミ子
 毛利 晴美
 薬師寺 徳子
 山本 信枝
 平岡 千代子

蜻蛉やまじろぎもなき石工の眼
 皿盛りの鱈の湯引きや在祭
 星祭子等一礼し色紙吊る
 気イ付けて又来なはいよ雁送る
 台風や島を離れて半世紀
 秋澄むや鬼城連山くきやかに
 犬連れて残暑の散歩行き戻る
 大根蒔く晴耕雨読たのしめり
 ふるさとは離れ小島よ流れ星
 読みさしの一書休暇の果てにけり
 青みかん聴こゆる父母の応援歌

赤松 彌介
 渡辺 孤鶯
 大野 直続
 上野 正志
 平野 清流
 佐々木 皓一
 財前 溪子
 中山 孝司
 勇井 八郎
 亀井 幸子
 酒井 けい子